



SBSビジネスレポート

2016年12月期 期末株主通信

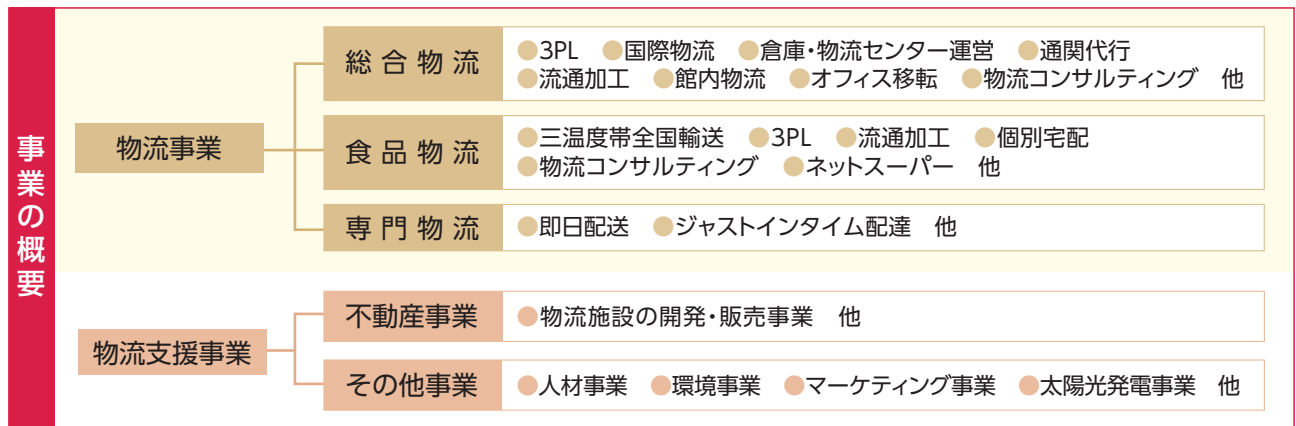
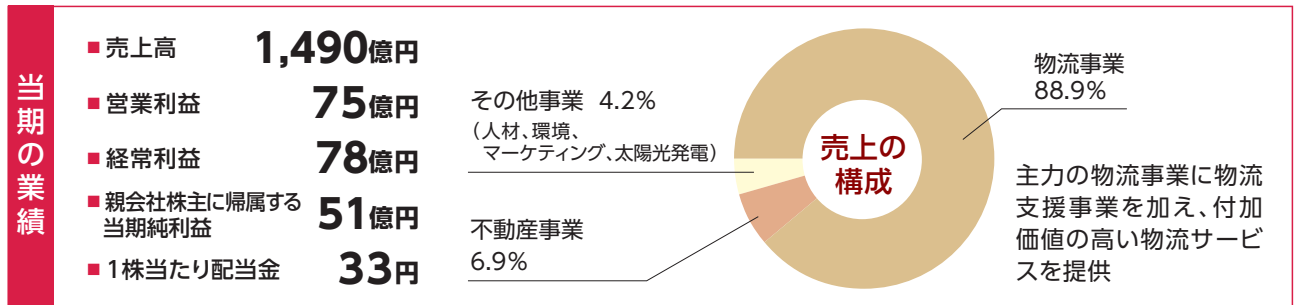
2016年1月1日~2016年12月31日



INDEX

| | |
|------------|----|
| ビジネスハイライト | 01 |
| 社長メッセージ | 02 |
| ハイライト | 05 |
| トピックス | 06 |
| 連結業績 | 07 |
| 会社概要&株式の状況 | 10 |

SBSグループは、あらゆる物流ニーズに優れた品質でお応えします。



※本資料の将来の見通しに係わる記述は、現時点で入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確定な要素を含む仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

3PLと物流施設開発事業の伸張でV字回復、 次世代SBSグループの基盤作りを開始しました



代表取締役社長 鎌田 正彦

当期(2016年12月期)の経営環境

当期は、ネット通販業界の急伸などを背景にした物流需要の高まり、原油安による燃料費負担の軽減等の追い風があった反面、天候不順や災害による物量の伸び悩み、深刻さが増す人材不足などの厳しい経営環境にも直面しました。このような環境のなか、当グループは前期に行った海外子会社からの経営撤退による多額の損失計上からのV字回復を果たすべく、グループ一丸となって業容の拡大と収支の改善に取り組みました。

SBSグループ過去最大規模・ 5万坪の立ち上げに挑戦

事業戦略では、自社開発した新杉田物流センターにおけるEC通販のフルフィルメントサービスやワイン保管・リーファー配送などの立ち上げを皮切りに、百貨店、大手スーパー、ドラッグストアなどから受託した3PL事業の拠点を相次いで開設いたしました。新規稼働した総床面積は約5万坪。単年度の開設規模としては過去最大規模のチャレンジとなりましたが、無事に立ち上げを完了することができました。

3棟の物流施設が竣工、1棟を売却

投資戦略では、2月に横浜市磯子区に国内最大級となる高機能ワイン専用保管庫を備えたマルチテナント型物流センター（延床面積約1万2千坪）、翌3月には埼玉県所沢市に大手百貨店の専用物流施設（同約9千坪）が竣工しました。さらに、10月には仙台市宮城野区に3温度帯対応の物流施設（同約2千坪）が竣工、東北地区における低温物流の主要拠点として稼働を開始いたしました。

一方で川越の物流施設（同約1万4千坪）を売却、これにより投資資金を回収すると同時に、前期の海外子会社からの撤退に伴い毀損したバランスシートの改善を図ることができました。

当期業績および 来期業績予想につきまして

これらの取り組みにより、当期の業績は売上高1,490億円（前期比5.7%減）、営業利益75億円（同40.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益51億円となり、前期の38億円の純損失からV字回復を果たしました。

2017年度の業績予想については、物流事業が堅調に拡大するものの、販売用物流不動産の売却規模を巡航速度に戻すことから、売上高1,500億円、営業利益62億円、親会社株主に帰属する当期純利益40億円と、微増収減益となる計画です。

ITを活用したマーケティング、 次世代物流サービスの研究

SBSグループでは、ホームページやお客様向けサービス事例集、ウェブ広告など、多様なメディアを複合的に活用したマーケティングを積極展開しております。これにより、お客様にサービスの訴求をしつつ、そのニーズを早期に把握することで、最適なタイミングで最適なソリューションをご提案できるようになりました。ウェブを通じた案件受託件数数は年々着実に増加してきております。また、積載率の向上や新サービス研究の為、現場経験を持つプロジェクトメンバーらが自社開発した車両の動態管理システムの実証実験を現場車両1,000台規模で行うなど、ITを活用した次世代物流サービスの開発にも積極的に取り組んでおります。

SBSブランドの浸透を実感

当グループは、2013年6月にグループブランドを統一、以降、全グループ会社がグループ共通のロゴマークを使用するようになりました。同時に、新聞広告やインターネット、お客様向け情報誌など様々なメディアを通じて、グループブランドに関する情報発信を地道に続けてまいりました。このような活動の結果、ロゴマークをご覧になったお客様やお取引先様からの反響も大きくなり、認知度が確実に上がりつつあることを実感するようになりました。今後も従業員一人ひとりがSBSブランドを体現するとともに、多様なメディアを活用したブランディング活動を推進してまいります。

株主の皆様へ 創業30周年を迎えるにあたり

SBSグループは、今年12月に創業30周年を迎えます。これもひとえに、株主の皆様のご支援ご厚情の賜物と深く感謝申し上げます。先述のとおり、私どもはいま、次世代のSBSグループの在り方を見据え、新たな物流サービスの開発や効率化に取り組んでおります。30年前、東京下町の古い倉庫の片隅で培った不屈のチャレンジ精神を残しながら、今後も「物流の改革」を通じて一層の企業価値向上に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、末永くご支援賜りますようお願い申し上げます。

2017年 SBSグループ方針

- ① 営業力とSBSブランド力の強化
- ② 3PL事業の更なる強化
- ③ 物流不動産開発の推進
- ④ M&Aの積極化
- ⑤ 海外展開の推進



食品物流のノウハウを総結集！ 「ファインワイン物流」への参入

～消費量の拡大を見込み、短期間でワイン物流のサービス体制を構築～



SBSロジコムでは、2015年秋からワインに特化した新たな物流サービスを開始いたしました。2016年2月に竣工した新杉田物流センター内には、“ワイン倉庫の概念や標準を一新した高品質な専用センター”、との高い評価を得たワイン専用・定温定湿庫を設けるなど、本格的なサービス展開を推進しています。SBSグループの強みの一つである「食品物流」のノウハウを余すところなく活かし、深い造詣が求められる「ファインワイン」に特化した物流サービス体制を急ピッチで整備しています。

SBSのワイン物流の強み その① 保管から配送まで徹底した温度・湿度管理を実現

ファインワインは、ブランド価値や品質維持のために、産地からエンドユーザーに至る物流過程で、厳密な管理が求められるため、温度と湿度を一定に維持しながら全ての物流業務を行える環境が不可欠となります。新杉田物流センターでは、産地から到着したリーファーコンテナ内のワインを外気温に一切さらすことなくドックシェルターを介して入庫受付し、温度14℃ 湿度70%の保管環境を365日24時間実現しております。さらに、ワイン専用の定温車両による配送など、入庫から配送完了時まで、品質維持のための高機能な専用設備と運用を実現しています。



SBSのワイン物流の強み その② ワインに造詣が深い専門スタッフの育成と配置

新杉田物流センターにおけるファインワイン物流サービスは、物流サービス以前にワインそのものへの理解と愛情を持つことを重視しており、ワインに心得を持つ専門スタッフも高い評価を得ています。例えば、庫内作業では、これらの豊かな経験を持つスタッフが、バーコードのない様々な言語や書体で記述されたラベルを目視で分類することも可能です。また、日本ソムリエ協会のソムリエ資格取得を推奨し、ワインのプロフェッショナルを招いて定期的にワイン講習会を行い、ワインそのものを理解する現場スタッフの育成にも注力しています。



SBSのワイン物流の強み その③ SBSグループの総合力が活きる、ワイン物流のワンストップサービス

SBSグループではワインの物流に関し包括的なサービスをご提供することが可能です。①産地からの国際輸送の手配、②輸入申告や蔵入承認申請など通関手続きの代行、③専門スタッフによる荷受け・出荷前検品、④定温・定湿での保管、⑤ラベル貼付やセット詰め、包装などの流通加工、⑥専用車両での配送といったトータル物流サービスをご提供しております。海外からのワインだけでなく、国産ワインの物流にも自信をもってお応えすることができます。





熊本地震被災地へ義援金300万を拠出

(SBSグループ)

4月

過去最大の震度7を観測した熊本地震は熊本・大分両県に深刻な被害をもたらしました。SBSグループは、被災された皆様の救援や被災地の復興にお役に立てていただくため義援金300万円を拠出しました。



仙台物流センターが竣工

(SBSフレック)

10月

東北エリアの3温度帯物流拠点を仙台センターに集約。最新の冷凍冷蔵設備による徹底した温度管理のもと、北海道・東北と関東の中継地点として24時間365日稼働で3温度帯物流を提供しています。



過去最大規模、5万坪の物流拠点開設

(SBSロジコム)

2~6月

新規稼働した横浜、埼玉の自社センターのほか、千葉(佐倉、印西、市川)、兵庫(三田)などで合計5万坪の物流拠点を開設。ワイン、百貨店、ネット通販、ドラッグストアなど3PL事業のベースロードが拡大しました。



第1回SBSグループドラコンを開催

(SBSグループ)

11月

SBSグループとして初となるドライバーコンテストを開催。グループ7社の21名の選手が安全技術を競いました。代表の鎌田も30年ぶりにハンドルを握りコースを試走。グループ全体への安全意識の浸透に取り組んでいます。



「NRC安全・安心体操」を開発、 全社で運用開始

(日本レコードセンター)

10月

日本レコードセンターでは、従業員の健康増進を目的に、同社の安全衛生委員会が中心となってオリジナルの「NRC安全・安心体操」を開発し、始業前に3分間の体操を実施。従業員の健康増進に取り組み、企業の成長力につながる健康経営を推進しています。



輸送効率向上を1千台で実証実験

(SBSロジコム)

11月

輸配送事業におけるトラックの輸送効率の向上の仕組みを独自に開発。保有車両約1千台で専用端末とネットワークを使い車両の動態管理を実現。トラック輸送の生産性向上への実証実験に取り組んでいます。

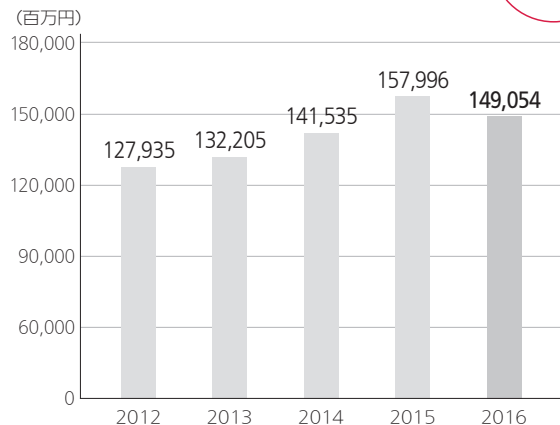


当期の連結業績

前連結会計年度におけるインド事業会社の損失処理に伴う大幅な減益から一転、V字回復を果たしました。主な要因は、物流施設売却、燃料価格の負担減、料金改定効果等です。また、事業戦略の一環としてユーザー向け広報誌やインターネットでの情報発信に努め、SBSブランドの強化を推進し、新規営業案件の受注獲得に取り組みました。

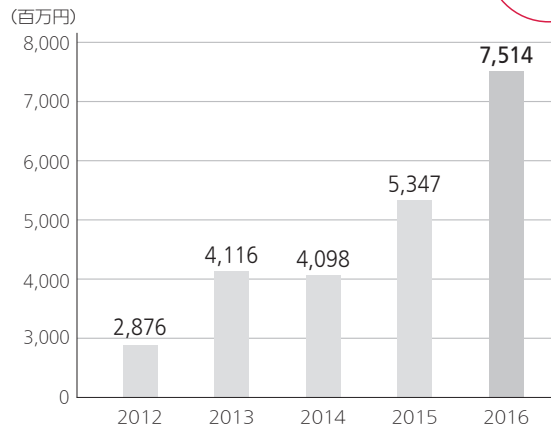
■ 売上高

前年同期比
5.7%減



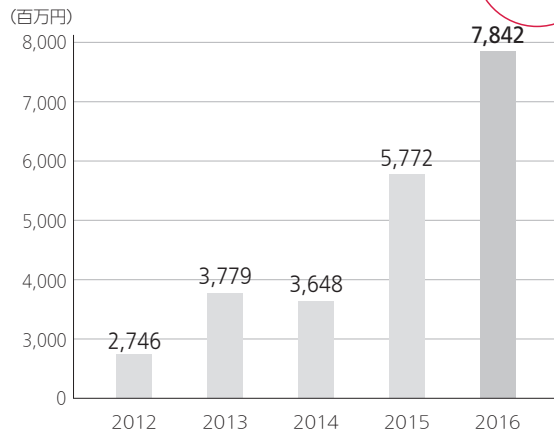
■ 営業利益

前年同期比
40.5%増



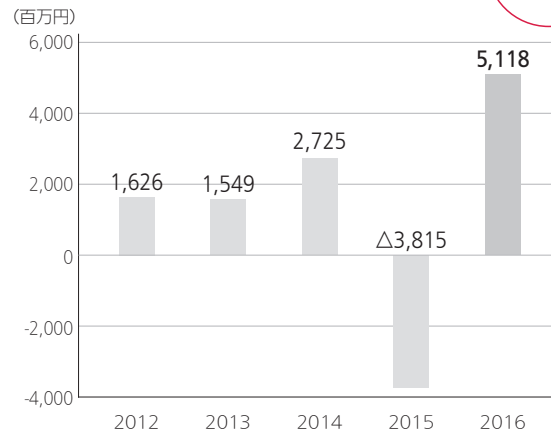
■ 経常利益

前年同期比
35.9%増



■ 親会社株主に帰属する当期純利益

前年同期比
—



■ セグメント別概要

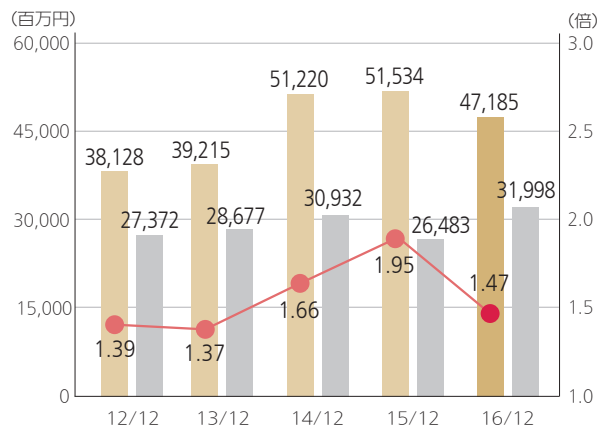
(単位:百万円)

| | 2016年通期 | | 2015年通期 | |
|-------|---------|-------|---------|-------|
| | 売上高 | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 |
| 物流事業 | 132,487 | 2,266 | 143,391 | 2,072 |
| 不動産事業 | 10,278 | 5,108 | 8,641 | 3,292 |
| その他事業 | 6,288 | 321 | 5,963 | 238 |
| 調整額 | — | △182 | — | △256 |
| 合計 | 149,054 | 7,514 | 157,996 | 5,347 |

- **物流事業**：当期に竣工・賃借した合計5万坪の物流拠点で3PL案件が順調に稼働し、業務を拡大しました。海外物流事業が縮小した影響から減収となりましたがグループの中核を担うSBSロジコムとSBSフレックが伸張り増益を確保しました。
- **不動産事業**：賃貸料収入が堅調に推移したことに加え、第2四半期に川越物流センターを売却したことが寄与し、大幅な増収増益となりました。
- **その他事業**：人材事業は、人手不足を背景にスタッフの確保が追いつかず機会損失が発生しましたが、マーケティング事業が好調に推移したことから売上高、営業利益ともに増加しました。

■ ネット有利子負債／株主資本／ネットDEレシオ(右軸)

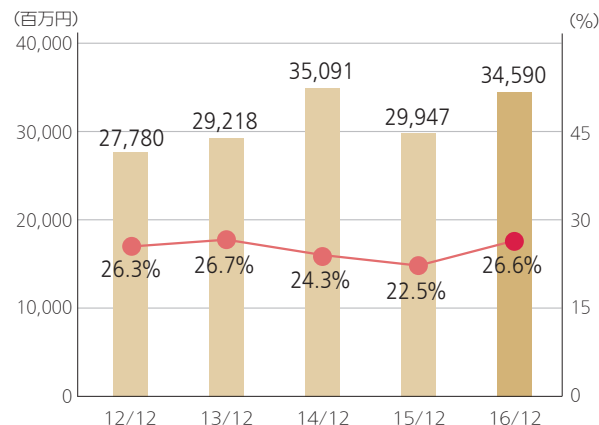
■ ネット有利子負債 ■ 株主資本 ● ネットDEレシオ



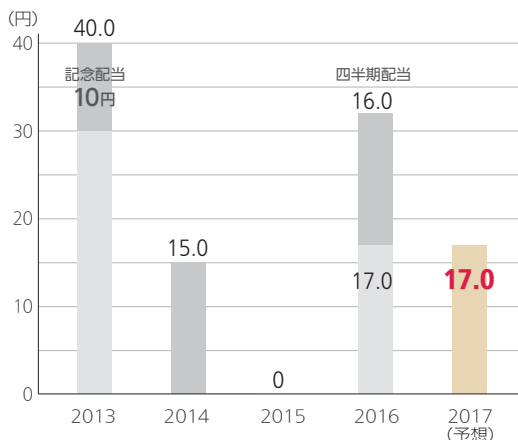
※ネット有利子負債＝長期・短期借入金＋社債－現預金
 ※ネットDEレシオ＝ネット有利子負債÷株主資本

■ 純資産／自己資本比率

■ 純資産 ■ 自己資本比率



■ 配当金の推移



※2014年6月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。
 ※2013年の記念配当は、東京証券取引所市場第一部への上場を記念して実施したものです。

■ 利益配分に関する基本方針

SBSグループは、株主の皆様への利益還元を経営の重要施策のひとつと位置付け、より強固な経営基盤の構築のために内部留保の充実を図るとともに、継続的な配当維持と業績に応じた配当水準の向上に努めることを利益配分に関する基本方針としています。

2017年12月期の期末配当につきましては、1株当たりの配当金17円を予定しております。

来期 (2017年12月期) の連結業績予想

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS (Forecast)



■ セグメント別

(単位: 百万円)

| | 物 流 | 不 動 産 | そ の 他 | 調 整 後 合 計 |
|-----------|---------|--------|-------|-----------|
| 売 上 高 | 136,500 | 6,800 | 6,700 | 150,000 |
| 増減率 | 3.0% | △33.8% | 6.5% | 0.6% |
| 営 業 利 益 | 2,500 | 3,600 | 350 | 6,200 |
| 増減率 | 10.3% | △29.5% | 9.0% | △17.5% |
| 営 業 利 益 率 | 1.8% | 52.9% | 5.2% | 4.1% |

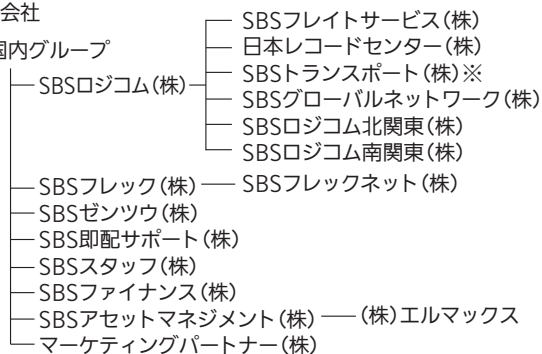
■会社概要

社名 SBSホールディングス株式会社
 代表取締役 鎌田 正彦
 創立 1987年12月16日
 資本金 39億2,075万円
 売上高 1,490億円(連結) ※2016年12月31日
 所在地 〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3
 TEL:03-3829-2222(代表)
 FAX:03-3829-2822

事業内容 物流事業、不動産事業、マーケティング事業、人材事業 他

連結子会社

■国内グループ



■海外グループ

— SBS Logistics Singapore Pte. Ltd.(アジア統括会社)

※2017年1月1日付、SBSロジコム(株)に吸収合併

■役員 (2017年3月28日付)

代表取締役 鎌田 正彦
 常務取締役 入山 賢一
 取締役 泰地 正人
 取締役 佐藤 佳嗣
 取締役 岩崎 二郎
 取締役 関本 哲也
 常勤監査役 山下 泰博
 監査役 正松本 重孝
 監査役 竹田 正人

※取締役のうち、岩崎二郎、関本哲也は社外取締役です。
 ※監査役のうち、正松本重孝、竹田正人は社外監査役です。

■株式の状況

発行可能株式総数 154,705,200株
 発行済株式の総数 39,718,200株
 単元未満株 2,100株含む
 単元株制度の有無 有(100株)
 株主数 4,891名

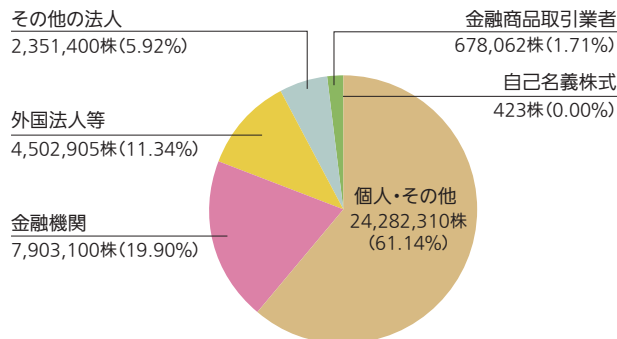
■大株主の状況

| 株主名 | 持株数 | 持株比率(%) |
|--|------------|---------|
| 鎌田 正彦 | 14,888,400 | 37.48 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 3,652,500 | 9.19 |
| SBSホールディングス従業員持株会 | 1,535,700 | 3.86 |
| 特定有価証券信託受託者 株式会社SMBC信託銀行 | 1,200,000 | 3.02 |
| 東武プロパティーズ株式会社 | 954,800 | 2.40 |
| 大内 純一 | 875,000 | 2.20 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 758,600 | 1.90 |
| CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY | 704,300 | 1.77 |
| STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224 | 650,000 | 1.63 |
| 株式会社スリーイーホールディングス | 468,000 | 1.17 |

※発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、少数第3位を切り捨てて表示しております。

■所有者別株式分布状況

(発行済株式総数: 39,718,200株)



株主メモ

事業年度 1月1日～12月31日

期末配当金受領株主確定日 12月31日

定時株主総会 毎年3月開催

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)

上 場 証 券 取 引 所 東京証券取引所 市場第一部

公 告 方 法 公告掲載URL <http://www.sbs-group.co.jp/>

※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に
公告いたします。

【ご注意】

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3 オリナスタワー
TEL:03-3829-2222(代表) FAX:03-3829-2822

